

山下直登さんへの追悼

経済学部長 桂 昭 政

前経済学部長である山下直登さんが昨年5月に亡くなられて経済学部にとってぽっかりと穴があいた感じである。私個人としてもしんまい学部長としていろいろとアドバイスしてもらい、これからも相談相手として頼りきっていただけない悲嘆にくれるとともに不安が拡大していくのを禁じ得なかった。

山下さんは新キャンパスの移転計画の進行とカリキュラム改革の遂行という難しい時期にいろいろな課題を抱えながら、山下さんがよく口ぐせにしていた「学部のために」の言葉どおり頑張ってこられたことは衆目の一致するところであり、ご苦労も多かったことと思われる。また山下さんは昨年もらった賀状、あるいは3月の学部長慰労会の時にとり合わせた席で喜々として今後の研究活動を吐露されていたのが思い起こされるとともに、特に御自身の研究完成が間近に迫っている感じでさぞかし心残りであったろうと思われる。

山下さんのことで私が印象に残っているのは本学の共同研究プロジェクトのことである。大学における活発な研究活動を常に念頭に置き、自分だけではなく、他の人をも組織し、共同研究体制をくんで大学の研究活動の活性化に先頭をきって尽力されていたのが浮かんてくるのである。そして共同研究の成果が着実に出版物として、例えば『日本経済の分水嶺』（文眞堂）、『大恐慌と戦間期経済』（文眞堂）として世に問うているのは大部分が山下さんの力にあずかっているといっても過言ではないように思われる。山下さんは大学の要が何であるかを身を呈して示されたのだと思う。

山下さんのこれまでの大学ならびに学部への寄与に対して報いるべく、また活発な研究、教育活動を通じて大学の発展を常に考えていた山下さんの遺

志をあらたな銘とすべくここに追悼号を発刊するとともに、山下さんのご冥福をお祈りしたいと思う。

1995年1月